



【美郷町の紹介】
 島根県の中央部に位置し、中国地方最大の河川・江の川が貫流する自然豊かな町。人口4,900人。
 (数値は平成27年「統計調査」による)

【取り組み】
 田畑を荒らす野生イノシシを捕獲し、臭みの残らない独自の処理方法を駆使して、肉や缶詰に加工。「おおち山くじら」というブランド名で販売されています。また、地域の女性たちも名刺入れやペンケースといった革製品を手作りし、販売されています。



島根県 邑智郡 美郷町と 丹波篠山市長 × NPO法人里地里山問題研究所代表理事 × 島根県邑智郡美郷町長
獣害対策・地域活性化に向けた連携協定を締結

コーディネーター：清野未恵子(丹波篠山市農都環境アドバイザー)

特別座談会

丹波篠山市長 × NPO法人里地里山問題研究所代表理事 × 島根県邑智郡美郷町長
酒井隆明 × **鈴木克哉** × **嘉戸隆**

12月15日、丹波篠山市と島根県邑智郡美郷町は、鳥獣被害対策についての情報や技術の共有、人材交流を目的とした「鳥獣被害対策及び地域活性化の促進に関する協定」を締結しました。

今回は、連携協定締結を記念して行われた特別座談会の様子をお届けします。[敬称略]

問い合わせ 森づくり課 ☎552-5013



清野 令和元年6月、NPO法人里地里山問題研究所(通称・さともん)と島根県美郷町が連携協定を締結されました。そのことが、両市町が連携協定を締結するきっかけとなったと聞いています。その経緯を鈴木さんから教えてくださいませんか。

鈴木 平成30年12月、第1回「獣がいフォーラム」の講演依頼で美郷町を訪問した際、丹波篠山市が考える、地域内外の多様な人材が関わり獣害対策をきっかけに、地域活性化につなげるという「獣がい対策(※1)の理念を説明しました。

そこで、嘉戸町長から「獣がい対策」の理念は、まさに美郷町の重要施策である「美郷バレー構想」と方向性が合致するとの話をいただき、さともん美郷町が協定を締結する運びとなりました。ただ、さともんは市と連携して活動しているところもあるため、両市町も連携協定を結ぶのではどうかと提案しました。

現在、町のイノシシ対策・活用が、町のビジネスとしても六次産業化し、それが移住定住にもつながっています。

清野 町長、「美郷バレー構想」について教えてください。

町長 私は以前、証券会社に勤務していましたが、その経験から世界経済は、間違いなく米国のシリコンバレーがリードしていると感じました。シリコンバレーに行くとし新しい技術が手に入り、人脈ができるといわれ、そこはまさに世界の中心街でした。分野は違いますが、鳥獣被害対策と住民の取り組みに関しては、美郷町に行けば情報が入る。そうした町にしたいとの思いで、鳥獣被害対策版シリコンバレーを立ち上げました。

成に向けて両市町と連携し、民間団体ならではの支援をしていきたいと思っています。

町長 少子高齢化を迎える社会の中で、両市町が獣害の地域課題と地域活性化に真っ先に取り組み、知恵を出し合い、日本の他地域をリードする存在になりたいと思います。

市長 美郷町は、獣害という課題に対して、住民が主体で、獣害に強い畑づくりや、捕獲個体の缶詰ブランド化などに積極的に取り組み、町の交流人口の増加につながっています。こうした「マイナスイメージ」に変える「考え、取り組み」には、大変驚きと感銘を受けています。

を思うと、被害の状況は落ち着いてきたと感じています。これからは、地域の活性化へと転じさせる取り組みを進め、そうした理解も深めていただける地域を増やしていければと思います。

清野 丹波篠山市で獣害対策が着実に進んできた要因は、地域住民主体による取り組みが大きいと感じます。市長、これからの取り組みについて聞かせてください。

鈴木 以前、サルに関しては捕獲を望む声や、何をやっても効果がないという話を中心でした。しかし、近頃は農地はこうすれば守れる、こうすれば集落全体で出沒を抑えられる、シカ・イノシシの集落防護柵は維持管理が重要という認識が浸透してきました。

市長 本市は、これまでから常に獣害をどう防ぐか考えてきました。近年、農家の皆さんも、自分たちが主体で対策して被害を防ぐことの重要性について理解が進んできました。その効果もあり、一時のこと

これから、この地域も人口減少や高齢化により、獣害対策を今まで通り行うことは困難になります。そこで、地域を守り続けるためにも、少しでも早く「獣がい対策」に取り組んでいかないとけません。

町長 鳥獣被害対策のノウハウや情報交換はもちろん、交流を通して、まちづくり・村おこしをさらに進めていきたいと思っています。

近年、山間地の農地・森林の荒廃により、田舎に限らず、都会でも鳥獣害の問題は影響を受け、深刻化しています。地方が疲弊しているという根本の問題を国民全体で考える

清野 それでは、最後に一言ずつお願いします。

市長 協定締結を機に、一層市民の皆さんと一緒に市も鳥獣被害対策に積極的に取り組み、美郷町と一緒に内外にその取り組みをアピールしていきたいと思っています。



丹波篠山市長 酒井隆明



NPO法人里地里山問題研究所
 代表理事 鈴木 克哉
 (プロフィール)
 2007年 京都大学霊長類研究所に勤務
 2008年～15年 兵庫県立大学／兵庫県森林動物研究センターで兵庫県のニホンザル管理を担当
 2015年 NPO法人里地里山問題研究所を設立



島根県美郷町長 嘉戸 隆
 (プロフィール)
 1987年 大和証券株式会社入社
 2004年 マーケティング戦略室長に就任。以後、営業企画部長、横浜支店長などを歴任
 2018年 美郷町町長に就任

(※1) 獣がい対策

丹波篠山市が提唱する、獣害対策をきっかけとした、地域の活性化の取り組みのこと